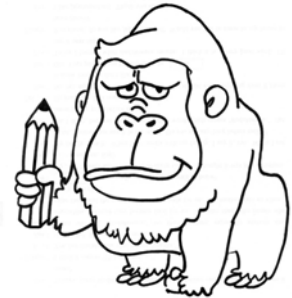


ファースト・アカデミー ニュースレター

学力向上への挑戦状！

18 6月 第137号

1. 夏前までの勉強法
2. スイスチーズモデル
3. じっくり思考力
4. 定期テスト型の勉強から実力テスト型の勉強へ
5. 要約メソッド
6. 編集後記



夏前までの勉強法

まとまった学習時間が確保できる夏休み前までは、受験勉強以外にも部活や定期テストなどに時間をとられやすいので、しっかりと学習時間を確保できる習慣を身につけることが大切です。今回は毎日の学習習慣をつくるうえで役立つようなワンポイントアドバイスをいくつか上げていきたいと思います。



- ① 夏休み前までは、基礎力の養成に集中！
 学習の基礎力を養成するとは、「理解⇒インプット⇒アウトプット」をくり返し練習することであり、過去問を解いたり模試を受けたりすることは、逆の「アウトプット⇒理解⇒

インプット」をくり返すことです。つまり、いきなり過去問を解こうとしても重要事項を理解し、一定量の知識をたくわえるインプットをしておかないと歯が立たないのは当たり前です。焦らず、理解を第一とし、ひたすらインプットをくり返し、復習としてのアウトプットを欠かさないようにしましょう。

- ② 英語、数学、国語など実力をつけるのに時間がかかる教科は毎日くり返す！

理科や社会といった教科が必須で、しかも苦手な生徒たちも、もちろん多数います。しかし、英語をある程度のスピードで読み進めたり、数学の計算をすばやくおこなったりといった能力は一朝一夕には身につけません。毎日一定時間を確保したうえで、理科や社会に時間をさきましょう。なお、私立文系の場合は、現代文を一つ読み、漢字練習を毎日くり返すこととなります。

- ③ 自分にあった学習方法と環境を見つけよう！

例えば英単語を記憶するとき、一般的には

学力向上への挑戦状！

何回も声に出して書いてみるのが有効とされていますが、何度も見たほうが記憶できるという生徒もいます。要は、くり返すのであれば、自分が最も記憶できる方法が最適であり、そうした方法を見つけておくことが大切です。また本番で、いかなる状況でも集中できるように、学習環境もある程度、雑音がある場所が良いとされています。図書館や喫茶店、塾や居間など、いろんな場所で学習してみて、自分が一番勉強のはかどる環境を見つけよう。

④ いつでも自分のやる気スイッチに点火できるようにしておく

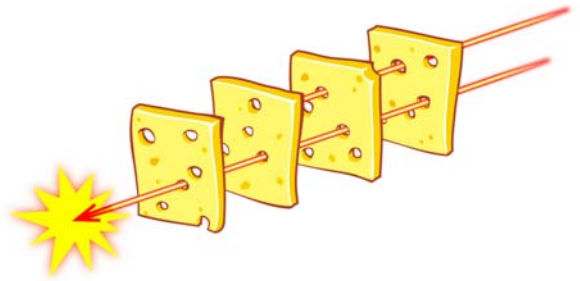
パラリンピックで活躍しているテニス選手の一人、国枝選手は自分のラケットに「俺が最強」と書き、しかも試合中その言葉をくり返し、自分を鼓舞したそうです。自分に声をかけ、自信を持つことが実力を引き出します。しかも、実際に自信がないときでも自信があるフリをすることによって、行動から心理を強化することもできるのです。是非、自分のやる気を引き出すかけ声を自分にかけてみましょう。

⑤ ゲーム、漫画、スマホは自主規制を！

勉強のじゃまになるからとゲームや漫画、スマホを日常生活から遮断することは、ほぼ不可能です。時間を制限できるよう自己コントロールを身につける良いチャンスととらえましょう。計画通り勉強が進んだら、自分へのご褒美として、一定時間ゲームをすとか、自分をコントロールできるようにしよう。

(宿谷)

スイスチーズモデルとはリスク管理に関する概念の一つ。スイスチーズの内部に多数の穴が空いているが、穴の空き方が異なるチーズを何枚も重ねると、貫通する可能性は低くなる。同様にリスク管理においても、視点の異なる防護策を何重にも組み合わせることで、事故は不祥事が発生する危険性を低減させる事ができる。スイスチーズモデルでは、完璧な防護壁は存在しないと認識した上で、個々の防護壁が正しく機能するように監視することが重要とされる。



イラストが非常にわかりやすいですが、完璧に防御することが難しい、または非常にコストがかかるといった場合には、チーズの枚数を増やすか穴を小さくしたり、穴の数を減らしたりすればいいわけです。これは確率論の話にもなってきます。例えば、飛行機は事故を起こすかもしれないので、乗りたくないという人がいるとします。では、その人は自動車にも乗らないということでしょうか。死亡事故に限ったとしても、飛行機事故で死亡する確率より、自動車事故で死亡する確率が高いはずですが、もちろん、自動車に乗らなかったとしても、外を歩いているだけでも事故に合う可能性がありますから、そんなことを気にしていたら一歩も外に出られなくなってしまいます。ですから、事故が怖くて飛行機に

スイスチーズモデル

乗りたくないというのは、あまり論理的ではありませんね。しかし、だからといって進んで交通量が多く歩道がない場所を歩いたり、シートベルトをせずに車に乗ったりはしないはず。つまり、自然とリスクを回避するために、チーズの枚数を増やしたり、チーズの穴を小さくする行動をとったりしているというわけです。ここで特に大事なものは、貫通させないためには、トータルで考えるべきだということ。穴をゼロにすることに労力を費やすよりは、チーズを 1 枚増やすほうが簡単な場合はそうすべきです。また、物事によっては、絶対に貫通させないようにするより、もし貫通した場合に、すぐに対処するというリスクマネジメントをするほうがいい場合もあります。自動車の生産などは、どんどんその方向に向かっていて、製品の完成度は上げる努力はするが、完璧な製品を送り出すためにはコストがかかりすぎるため、ある程度でとどめておいて不具合があった場合はすぐにリコールを出すということで対処しています。不具合をひた隠しにされるよりは、さっさとリコールを出してもらったほうが消費者にとってもよいはずですし、完璧な製品を出そうと商品の価格が上がってしまうことも、お互いデメリットしかありません。

日本人は特に確率に弱いと言われていました。その理由ははっきりとしませんが、元来農耕民族であるから、狩猟民族のように偶発的な事象に対応する能力が低かったり、几帳面性や努力といったものによる攻略に、潜在的な美意識を持っていたりするのかもしれませんが。また、幼少の頃から、テレビゲームのように確率がブラックボックス化しているものよりも、トランプやボードゲームのように確率が

わかりやすく、またそれがゲーム性に重要な役割を果たしているものに触れるようにすると、違ってくるのかもしれませんが。大人になってからも、株式投資のように不確定要素のあるものを、「ギャンブルだ！」と決めつけ遮断するのではなく、リスクを理解し、どう利用していくのかということが大切です。保険についても同様なことが言えるでしょう。日本人の多くが「保険はよくわからないもの」と考えています。若いうちに保険に入ると保険料が安くなるので、早く入ったほうが得だ、という人がいますが、確率的には若い人ほど死亡したり病気になったりする可能性が低いのですから、保険料が安いのは当然です。しかし、だからといって早く入ったら得をする考えるのは早計です。安くても、結局は長い期間保険料を払い続けるわけですから、支払う保険料合計では、若い時期（保険があまり必要ではない）の分だけ多く払うことになります。また、何も起こらなかったときは、よかったわけですが、そうすると今度は支払った保険料が無駄になった、もったいないと考えてしまい、貯蓄が必要かどうかをあまり考えずに、保険料の一部が「お祝い金」や「配当金」として戻ってくるような、貯蓄型を混ぜ合わせたような保険商品を選んでしまう人も多いようです。

このように例をあげればキリがないほど、確率は生活に密着しています。確率を毛嫌いするのではなく、確率を理解しうまく利用していきましょう

(中村)

じっくり思考力

第14回 選考逆転

今回は、「選考逆転」について考えて見ます。
以下のAさんの問題は何かでしょうか。

——問題です

Aさんは消費財メーカーのマーケター。現在、新商品のパッケージについて検討中である。

「今回の新商品サプリメントの『Z』は2つの差別化要素がある。アンチエイジングの効果が高い成分が多いことと、毛髪の成長を活性化するかもしれないと言われている成分が多いこと。どちらを前面に打ち出すべきかしら？ 2パターンのパッケージを（事前に加齢、毛髪の双方に悩みがあると応えた）想定ユーザー層に同時に見もらった調査結果では、アンチエイジングの方を前面に出したパッケージの方が、55対45くらいで優位のところかしら。個人的には、最初に別々に見た時には、毛髪の成長の活性化の可能性を前面に出しているパッケージの方がインパクトがあって良さそうに見えたんだけど、消費者がアンチエイジング前面の方が好みというのだから仕方がないわね。今回はアンチエイジングを前面に出すパッケージ案でいこう」



——解答です

今回の落とし穴は、「選好逆転」（厳密に言えば、「選好逆転の可能性の見落とし」）です。選好逆転とは、どの選択肢を選択するかが、その選択肢が提示された状況や順番などによって変化してしまう現象を言います。

選好逆転にはさまざまなパターンがありますが、よく知られているものとして、同時に提示するか、それとも別々に提示するかで、選好の結果が変わってくるという現象があります。

たとえばこんな実験結果が知られています。複数のサンプル集団に、3年契約の仕事の給与条件について、以下の2つの選択肢のうちの1つを見せます。各サンプル集団は、極力似たような属性の集団とします。

パターン 1:初年度給与 800 万円、2 年度給与 750 万円、3 年度給与 700 万円

パターン 2:初年度給与 700 万円、2 年度給与 750 万円、3 年度給与 800 万円

パターン 1 だけを見せられたサンプル集団は、この選択肢を魅力的ではないと考えました。逆に、パターン 2 だけを見せられた各サンプル集団は、概ねこの選択肢を好意的に捉えました。「この条件で働いてみたいか？」との質問に対しては、パターン 2 だけを見せられたサンプル集団の方が、「働いてみたい」と答える比率が高いという結果となりました。

面白いのはこれからです。その後、各サンプル集団は、それぞれもう 1 つの選択肢を提示され、2 つを比較した上でより好ましいと思

《0120-44-5981》

う方を選ぶように指示されます。その結果、早い時期にキャッシュを得ることができるパターン 1 を選ぶ人間がほとんどとなったのです。

なぜこのようなことが起こるのでしょうか？パターン 1 だけを見せられたとき、強烈に印象に残るのは、毎年給与が下がるという点でしょう。給与が毎年下がるというのは、通常はあまり好ましいことではありません。それゆえ、この選択肢単独では魅力的な選択に映らないのです。

しかし、パターン 2 と比較すると、額面の総額は同じで、しかも不確実性が低く時間的価値が高い初期の段階にキャッシュが手に入りますから、パターン 1 の方が実は有利な条件である（ファイナンスの言葉でいえば、NPV < 正味現在価値 > が高くなっている）ことに気がつくのです。

このようなことが起こる原因としては、「人は、同時に評価する方が、総合的により合理的な判断ができる」という考え方や、「個別評価では評価が難しい、あるいは目につきにくい評価軸（先の実験例であれば不確実性や金銭の時間的価値の評価）を軽く見、評価がしやすい評価軸（給与が毎年上がるか下がるか）を重く見る」という考え方などが提示されています。

冒頭のケースに戻ると、A さんは、2 つのパッケージ案を同時に提示していることがうかがえます。しかし、現実問題として、通常、最終的に消費者が目にするのは 1 つのパッケージでしょう。しかも、「アンチエイジング」と「髪の成長に効果がある可能性あり」では、感じる効用のダイレクト感も違います。であれば、同時比較テストもさることながら、そ

れぞれ片方を示したうえで、「買いたいと思うか？」などを質問するというテストも必要だったかもしれません。

素材にもよりますが、人間は瞬時の判断で購入の意思決定をすることが少なくありません。しかも、それは往々にして合理的にではなく、感覚的に行われます。合理的に判断をしているのか、冷静に考える必要があります。（加藤）

定期テスト型から実力

テスト型へ

「定期テストでは点数が取れ、順位も上の方にいるのですが、休み明けの実力テストで思ったような結果が出ません。」「定期テストと違い範囲が広く、どこを勉強していいのかわかりません。」最近、このような相談を生徒さんから受ける事が多いので、実力テストで結果が出る勉強方法を紹介していきたいと思えます。実は、定期テスト用の勉強と、実力テストの勉強にはちょっとした違いがあります。定期テストは得意なのに、実力テストになると思うような結果が出ない生徒さんは、参考にして下さい。

・ 短期記憶から長期記憶へ

定期テストでは、短い期間で習ったことをどれだけ覚えているかが問われるテストです。もちろん、全てを理解し試験が終わっても覚えていることが理想です。ですが、多くの生徒さんは、テスト前に一気に覚えてしまって、試験が終わればその半分は忘れてしまっているのではないでしょ

うか。短時間で一気に覚える勉強方法は、確かに定期テスト対策としてはとても有効ですが、時間が経つと忘れてしまいます。それでもテストで良い結果が出せたので、「復習」することを怠ってしまうのです。長期的な記憶、つまり実力テストのために知識を「自分のものにする」には、何度も演習し、復習する必要があります。定期テストが終わったとしても、それで終わりではなく、これは受験でも出題されるんだ、という意識で勉強して見下さい。

- ・ 理解し、使いこなす

定期テストでしか点数が取れない生徒さんの特徴として、「理解はしていないけれど、とりあえず覚える」という勉強方法をとっている事が多いです。確かに、試験前に一気に記憶し、結果を出すことは非常に重要ですし、目先の点数を追うことはなにも間違ったことではありません。ただ、試験前以外の学校の授業をおろそかにしてはいないでしょうか？学校で習ったことを、自学ノートにまとめ、その日のうちに自分の中で説明できるくらいに理解しておく。こういった工程が、長期的な記憶、実力テストの結果に繋がります。部活動が忙しくまとまった時間が取れない生徒さんは、週末でもいいですから、学校の授業で習ったことを、自分のものにし、人に説明できるように勉強する。これが習慣になれば、しっかりとした知識として定着するでしょう。

- ・ 苦手な範囲を疎かにしない

自分が苦手な範囲、あまり勉強していなかった分野は誰にでもあると思います。定期テストの場合は、みんなが新しく習

う範囲なので、勉強次第で一気に成績が伸びます。しかし、実力テストの場合は過去に習った範囲が出題されるので、苦手な分野がある生徒さんはそこで点数を落としてしまいます。もしどうしてもここが苦手、何度やっても覚えられない、そんな分野があるのなら、たくさん勉強して、ひとつずつなくして行ってください。先生に質問し、徹底的に演習するのも一つの方法です。苦手なところから逃げない、これが一番結果につながると思います。

(誠順)

要約メソッド

まず500字から600字の文章を用意するところから始まります。

皆さんが使っている塾のテキストや市販の問題集の本の半ページ分です。

その500字から600字の本文を次の3段階に分けて要約していきます。

①270字～330字 (大意要約)

②150字～180字 (メイン要約)

③90字～100字 (要旨要約)

ルールとしては、まず最初の①は本文を見て行い②は①を見ただけで行います。

③も同様に②を見ただけで行います。さて、そもそも要約をする目的とは一体何でしょうか？それは、ズバリ記述答案において“空欄”を作らないことです。

つまり、「何が何でも埋める！」ということです。ポイント部分を上手く抜き出し、

まとめることが出来ないから、記述答案を書けないわけで、これを解決するためのメソッドが【要約】なのです。まず、ポイントの抜

《0120-44-5981》

き出しには①大意要約が効果的です。大意要約のコツとしては例えば

機械が知能を持つことは出来ないだろうという考え方は、今では消えつつあります。

(40 字) という一文なら「機械」「知能」「持つことが出来ない＝持てない」「考え」「今」「消えつつある」という文章に登場する語句は、ほとんど全て使った上で、途中や文末の余計な表現を消していけば良いのです。つまり、**機械が知能を持てないという考え方は、今では消えつつある。(28 字)** となり、最初の 40 字から 28 字へと 7 割まで削ることに成功しています。こんなふうに「大筋で意味がかわらないまま、文章内容が短く削られて保存されている状態」を私は「大意要約」と呼んでいます。一文ずつコツコツ短くして行って下さい。では、②のメイン要約について解説しましょう。ここでは「記述能力」を高めることを念頭に置いています。大意要約の段階で、例えばこのような文章の流れになっていたとしましょう。これまで**機械は複雑な作業には向いていないとされてきた。すなわち、一部の作業では機械に任せているものの、最終的には必ずと言っていいほど、そこには人間の手が必要とされていたのである。しかし現在では、数多くの分野で、かつては人間に任されていた作業は、機械に取って代わられつつある。(138 字)**

ここでメイン要約のためのルールを解説します。

- ・重複したキーワードはなるべく避ける
- ・意味が通るギリギリまで、内容を削ってもよい(大意要約のコンセプトと同じ)
- ・指示語(こそあど言葉)は消す
- ・「しかし」「だが」など逆説の接続詞意外は

消せる場合が多い

- ・二文を一文にまとめない(文章を書くのが苦手な人は変にまとめてしまうため)

先ほどの文章を上へのルールに従い書き換えるところになります。

機械は複雑な作業には向かないとされてきた。一部では任せているものの、最終的には人間の手が必要とされた。しかし現在では、機械に取って代わられつつある。(74 字)

(小川)

編集後記

今月からニュースレターの編集が山本に変わります。色々教えてもらいながら編集作業をするにあたって、過去の記事を読み直していたのですが、懐かしい話題や学習方法に関する今でも通用する知識、ファースト・アカデミーの歴史が詰まっていて、とても感動しました。もし機会があれば、ご紹介していきたいと思います。月に 1 回お送りしているニュースレターは、今月で 135 号です。ここまで続けられたのも、一生懸命勉強し、頑張っている生徒さんと、支えてくださっている保護者の方のおかげです。本当にありがとうございます。今後とも講師一同精一杯書かせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

(教務部)

次回 7 月号は 6 月 20 日発行予定です。

学力向上への挑戦状!

学力向上のヒントがいっぱい！！

ファースト・アカデミー 塾講師の徒然日記

<http://first-academy.at.webry.info/>

ファースト・アカデミーの公式ホームページ

<http://www.first-academy.jp/>

加藤先生ブログ：教室長の冒険譚

<http://zarkava.blog111.fc2.com/>

↓補習などの連絡はこちらから↓

ファースト・アカデミー 情報BOX

<http://first-send.blogspot.com/>

ファースト・アカデミー モバイルサイト

<http://www.first-academy.jp/mobile/>



(文責) 教務部 広報課

☆小松駅前校 小松市土居原町194

0761-21-8863

☆栗津駅前校 (永田教室)

小松市符津町ウ84-10

0761-44-5550

☆栗津駅前校 (田嶋教室)

小松市蓑輪町ニ17

0761-44-5530

0120-44-5981